



さん が

第一二九号

令和 八年

西暦 二〇二六年

春 彼岸 三月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net

ご自宅のお仏壇で、お経を読んでいますという、お話しを伺うことがあります。「般若心経」が多いようですが、「修証義（しゅしょうぎ）」というお経を、読んでいくという方もいらっしゃいます。

お経は、ただお唱えする、というだけでも大きな功德を生みますが、自分が今お唱えしているお経が、どんな意味なのかを知ってみると、さらに読み甲斐があるのではないのでしょうか。

そこで、これから何年かをかけて、「修証義」で説かれていることから、ポイントとなるところを、少しずつ紹介していこうと思います。

「修証義」は、日本に曹洞宗を伝えられた道元禅師さまのお言葉を編集したもので、曹洞宗の中心となるお経です。明治二十三年にできあがりました。

五つの章に分かれており、ひとつひとつに副題が付いています。

第一章「総序（そうじょ）」では、自分の命に限りがあることをしっかりと受け止め、うかうかと生きて悪に染まらないようにすること。

第二章「懺悔滅罪（さんげめつざい）」では、たとえ悪に染まっても、自分のなした罪をごまかさなければ、仏さまのご加護があること。

第三章「受戒入位（じゅかいにゆうい）」では、仏さまのご加護を得て、善き人生を送るためには、仏さまが説かれた良い習慣を忘れないこと。

第四章「発願利生（ほつがんりしょう）」では、幸せは分かちあわなければ得られないこと。

第五章「行持報恩（ぎょうじほうおん）」では、善き人生を送ることが、仏さまへのいちばんの感恩返しになること。などが、各章の主なテーマとなっています。

次回のお便りから年二回ほどのペースで、「修証義」の一文を取り上げてまいります。どうかお楽しみに。

春が待ち遠しいですね。

今年の「東運寺花まつり」は、

4月4日（土）です。

11時から、かんたんな法要も行います。

当日は、朝から夕方まで、本堂の正面を

あけて、花御堂をお飾りいたします。薬師

堂もあけます。

春の良き日、ご進学やご進級を控えたお子さま、お孫さまとご一緒に、ぜひ健やかなご成長を願いにお参りください。



もちろん、お檀家さま

以外でも大歓迎です。

甘茶も召し上がって

いただけます。

春のお彼岸法要に、特別な布教師 さまがお見えになります

東運寺の春彼岸法要は、例年の通り、三月二十四日（月）午後一時より行います。

昨年引きつづき、曹洞宗の特派布教師さまが、ご法話にお出で頂きます。

特派布教師さまは、特別のお勉強をなされ、全国を飛び回ってご活躍されている方ばかりです。今年は、神奈川県から、ベテランの布教師さまがお出でくださることにになりました。

特派布教師のお話を直接耳にできる、貴重な機会です。ぜひ当日お参りくださいませ。

住職の徒弟、慧亮がこのたび結婚することになりました。夫婦として助け合い、成長していけることを願っています。

今夏のお盆くらいから、お寺で、顔を見ていただける機会があるかも知れません。

まだまだ若輩で、これからの二人です。温かく、気長な目で見守っていただけますように、どうかよろしくお願いいたします。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常

東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索